

## 中学校統合に関する地元協議会としての方向性

(資料3)

### (1)「中学校統合の必要性」について

千葉市の学校適正規模は12～24学級（1学年4～8クラス）である。一方で、千城台地区は、西中学校・南中学校とも現在9学級（1学年3クラス）の状況である。この観点からは、適正規模とするため、中学校統合の必要性はある。

### (2)「中学校統合を実施すべきかどうか」について

今後とも、両校は、9学級規模が継続される見通しであり、適正規模の12学級には、若干不足という微妙な状況である。統合を実施すべきかどうかについては、それぞれの立場から賛否両論がある。しかし、当事者である両中学校の保護者及び生徒の大多数（70%以上）からは、統合反対が表明されている。（\*）

このような状況を総合的に勘案し、中学校の統合は、強行せず見送ることが妥当である。

なお、中学校保護者会においては、「小学校保護者側は、中学校を統合してほしいという意見が多いこと」を踏まえて再度、統合に対する意思の確認を行うとともに、上記の方向性について了解を得ることとする。

#### \*中学校保護者会における主な統合反対の意見

- ・両中学校とも小規模ではあるが、今後も学年3クラス（9クラス規模）を維持できる推計であること。
- ・今の規模でも小規模校としての支障はなく、満足した学校生活が行われていること。
- ・中学時代は思春期、受験期といった繊細な時期であり、その統合については慎重に検討して欲しいということ。
- ・現在の不登校など問題を抱えた生徒の対応や、過去の歴史を踏まえ、現状の学校規模で、地域に2校存在する状況でバランスが取れていること。
- ・今の中学生の状況や実態を一番よく知る中学校保護者の意見を尊重してほしいこと。

以上